

ビデオ

5. 当院における ECIRS の初期経験

林 拓磨, 奥木 宏延, 岡崎 浩
中村 敏之 (館林厚生病院 泌尿器科)

【はじめに】 上部尿路結石に対する治療として TUL や PNL 等のエンドウロロジーが主流となっており, それらを併用した ECIRS が注目されている。今回, 当院にて ECIRS にて結石治療を行った 2 症例について報告する。

【症例 1】 68 歳女性。2017/9/26 右サンゴ状結石, 尿管結石にて当院受診, 10/31 PNL 施行も残石あり。11/29 ECIRS 施行。下腎杯残石あり SWL 予定中。【症例 2】 75 歳, 女性。【経過】 2017/8 左結石性腎盂腎炎にて入院。下腎杯から腎盂にかけての結石あり。その後結石の一部が U3 まで下降。9/29 SWL 施行も変化無く, 12/11 ECIRS 施行。大きな残石なく外来フォロー中。【結論】 手技の煩雑さや使用器具の多さ等課題は残るが, ECIRS は尿路結石に対して有効な治療法であると考えられた。

6. 比較的大きな腎癌に対する腹腔鏡手術の経験

羽鳥 基明, 大竹 伸明, 関原 哲夫
福間 裕二, 関口 雄一

(日高病院 泌尿器科)

摘出重量が 915 g と 1,200 g の比較的大きな腎癌の腹腔鏡手術を 2 例経験した。症例 1: 55 歳女性。身長 163 cm, 体重 52.8 kg。CT で左腎癌 (14×9.5×6.5 cm, 腎静脈内腫瘍浸潤あり) と診断。腹腔鏡手術は, 通常 4 ポートで開始したが, 右手操作で腫瘍を著しく圧迫するので, 右手と左手の間に 5 ミリの右手用ポートを追加した。腎の可動性はなかったが, 腫瘍の局在から, 大動脈直上で腎動静脈を処理してから腎周囲剥離を施行した。5 ポートで施行した。手術時間 5 時間 19 分, 出血量 102 g, 摘出重量は 915 g。症例 2: 37 歳男性。身長 186 cm, 体重 128 kg。CT で左腎癌 (腎門部に 5.8×5.5×5 cm) と診断。腹腔鏡手術は通常 4 ポートで施行した。手術時間 4 時間 58 分, 出血量 438 g, 摘出重量は 1.2 kg。内臓脂肪が多く視野の確保に苦慮したが, ガーゼをラケット面のように使用して視野を確保した。

〈セッション II〉

座長: 古谷 洋介 (高崎総合医療センター)

臨床症例

7. 献腎移植後にニューモシスチス肺炎を発症した 1 例

土肥 光希, 松田 裕美, 馬場 恭子
岡 大祐, 青木 雅典, 齋藤 智美
宮尾 武士, 中山 紘史, 栗原 聡太
大木 亮, 宮澤 慶行, 周東 孝浩
野村 昌史, 関根 芳岳, 小池 秀和
松井 博, 柴田 康博, 伊藤 一人
鈴木 和浩 (群馬大院・医・泌尿器科学)

症例は, 18 歳男性。若年性ネフロン癆による慢性腎不全に対し, 16 歳時に脳死下献腎移植施行し, 入院後, 38°C の発熱, 胸部 CT で両側肺びまん性すりガラス陰影を認めた。血液検査で β -D グルカン 473.8 pg/ml と高値であり, CMV アンチゲネミア, マイコプラズマ抗体, アスペルギルス抗原, クリプトコッカス抗原, T-SPOT はいずれも陰性であった。喀痰排出困難であり, 臨床的にニューモシスチス肺炎 (PCP) として ST 合剤内服 (9 錠/日) を開始したところ, 治療開始 2 日目より, 呼吸状態増悪傾向となり, 酸素投与を行った。HIV-PCP の重症例に準じステロイドパルス (mPSL 1 g 日 3 日間) 施行。後療法として PSL 80 mg/日から漸減した。ST 合剤を 3 週間内服し, ステロイドの併用で PCP は治癒し得た。今後は ST 合剤の予防内服 (1 錠/日) を継続する方針となった。移植後の PCP 治療や予防について文献的考察を加えて報告する。

8. 重複尿道の一例

松田 裕美, 土肥 光希, 馬場 恭子
岡 大祐, 青木 雅典, 齋藤 智美
宮尾 武士, 中山 紘史, 栗原 聡太
大木 亮, 宮澤 慶行, 周東 孝浩
野村 昌史, 関根 芳岳, 小池 秀和
松井 博, 柴田 康博, 伊藤 一人
鈴木 和浩 (群馬大院・医・泌尿器科学)

【症例】 50 歳代, 男性。【経過】 他科手術時に尿道カテーテル留置困難のため当科コンサルト。正常位置に認めた外尿道口から尿道カテーテル留置試みるも, 3 cm ほど進んだところで, ガイドワイヤーやカテーテルは挿入できず, 膀胱鏡及び尿道造影上, 正常尿道は存在するものの, 盲端となっていた。全身麻酔下にて, 普段の排尿状況については, 確認することができなかった。尿道下裂を疑い, 尿道開口部を外尿道口から会陰部まで, 探索するも見つからず, 膀胱瘻作成を検討も, 再度, 陰茎を観察したところ, 亀頭部正中腹側から左側にずれた冠状溝に孔を同定し, その孔から造影すると, 造影剤が尿道および膀胱に到達した